

万代シティの誕生

■万代シティの誕生

流作場の萬代橋東詰周辺は、かつては新潟交通の車庫や工場・バスステーション、自動車の整備工場などが立ち並ぶ、自動車の町でした。この町が、昭和40年代後半から大きく変化していきました。

昭和48（1973）年11月23日、大手スーパーのダイエーが地上6階、地下1階の万代シティビルに開店し、当日は入場制限をしなければならぬほどの人が押し寄せました。同日に、新潟交通本社とテナント店などを収容したバスセンタービルと、高さ100メートルのレインボータワーも開業し、「万代シティ」が誕生しました。

周辺には既に昭和46（1971）年にはミナミプラザ、47年にシルバーボウルが開業しており、50年に万代シルバーホテル、59年に新潟伊勢丹、平成7（1995）年に新潟ジョイポリス、8年にビルボードプレイスと、大型施設が次々に開業していきました。



昭和48年 開業当時のダイエー（当館所蔵）

■古町から万代へ

万代シティの誕生は新潟県内の商業に大きな影響を与え、昭和50年代以降、大型ショッピングセンターが郊外や中心街に進出することとなりました。市内中心部では、昭和51（1976）年には日本海側初の都市型地下街「西堀ローサ」が開業し、古町通や本町の商店街は全天候型のモールを設けました。



昭和60年 古町モール（当館所蔵）

また、高額商品を購入する場所は、それまで古町通や本町でしたが、昭和61（1986）年の調査から万代シティの方が多くなりました。歩行者の数も、平成元（1989）年からは古町通七番町よりもダイエー前の方が多くなり、人々の流れも変化していくこととなりました。